

宇和島城通信

8

2015.3



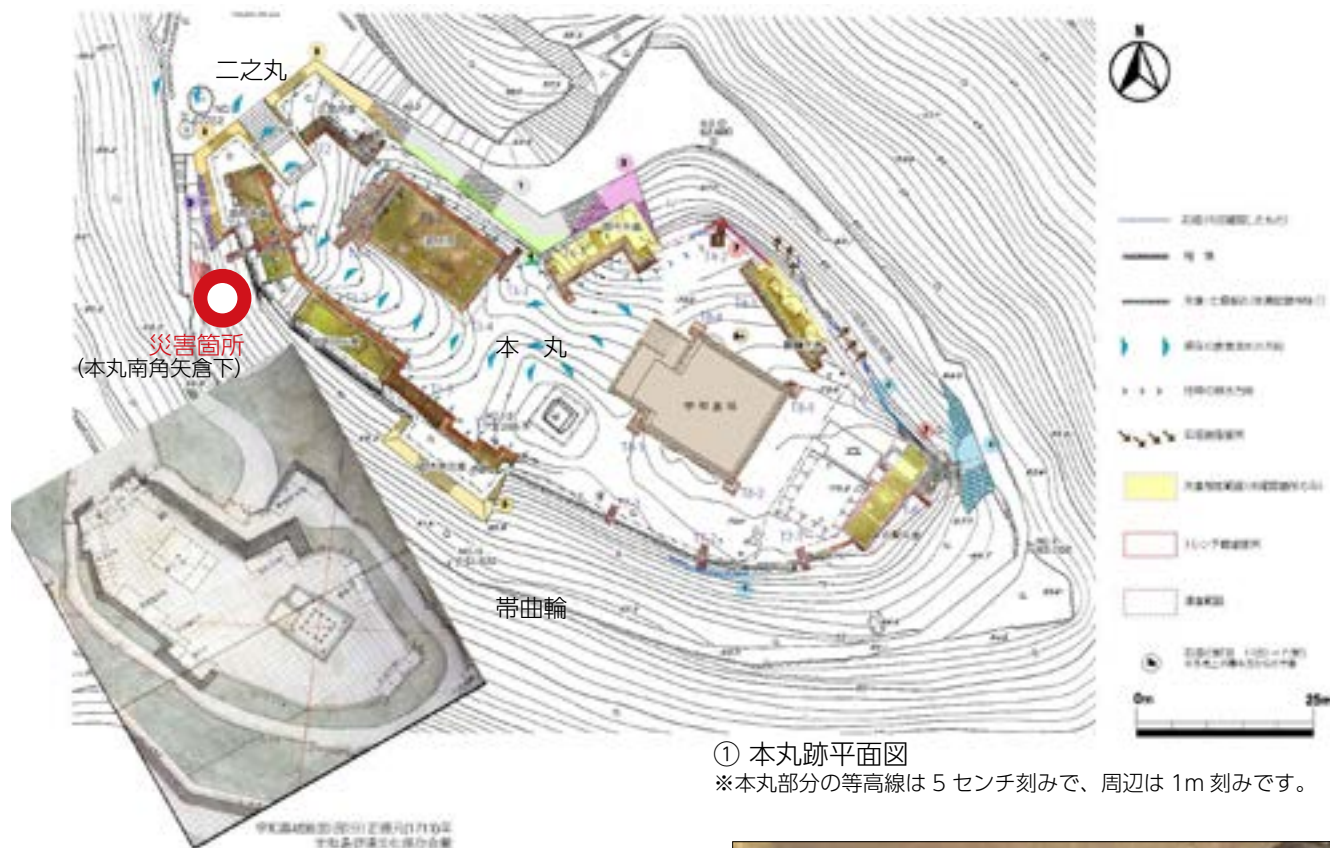
ここ数年、宇和島城では毎年のように台風や大雨などで被害を受けています。特に昨年8月10日の台風による被害では、天守の防災設備などに使用する送電線や送水管も破損してしまい、文化財保護だけでなく、一般利用の面でも大きく支障をきたす結果となりました。6号で一度災害のことは取り上げましたが、今回は今からこれらの災害やその復旧にどのように取り組んでいけばよいのか考えてみたいと思います。

【上の写真】(株)佐川印刷から提案・協力いただき撮影した航空写真です。マルチコプター（小型のラジコンヘリコプター）を使用して撮影しました。今回の崩落現場では引きが取れず地上からの撮影ではどうしても災害状況がつかみづらかったのですが、空からの撮影のおかげで、崩落規模やその実態を視覚的にとてもわかりやすく、とらえることができました。

【左の写真】天守の防火設備や室内灯、屋外照明などのための送電線や揚水管が、崩落してきた石や土砂で押し流され破損した写真です。現在は送電線のみ臨時復旧し、防火水槽用の水については宇和島消防署に協力いただき、漏水分を補水、その水位の監視を続けています。

本丸跡の災害復旧に向けて

平成23年度と昨年8月に崩落した南角矢倉下の石垣周辺については、昨年末から測量、地質、発掘などの調査を本格的に開始しました。来年度は工事設計をおこし、再来年度から工事着手の予定です。



① 本丸跡平面図
※本丸部分の等高線は5センチ刻みで、周辺は1m刻みです。

◆ 災害のあらまし

栽培場所は本丸に上がってすぐ左手の位置で、平成23年7月20日に崩落地点のすぐ隣となります。災害がわかったのは、8月10日の午後ですが、前日9日の宇和島の総雨量は189.5mm、1時間で22.5mmの最大雨量を計測、大雨並びに暴風警報が発令され、土砂災害警戒情報も発表されていました。

災害規模は、石垣とその下の斜面が幅約9～10m、高さ約26m、斜面長約40mに渡って崩落。うち石垣の高さは7mで、その石垣の前にある帯曲輪という本丸を周回する道のような細長い平場まで含む形で地すべりし、崩落した土砂が代右衛門丸跡まで及んでいました。送電線や揚水管は帯曲輪にそって埋設されていたのですが、この崩落でその部分がえぐられ、破損してしまいました。

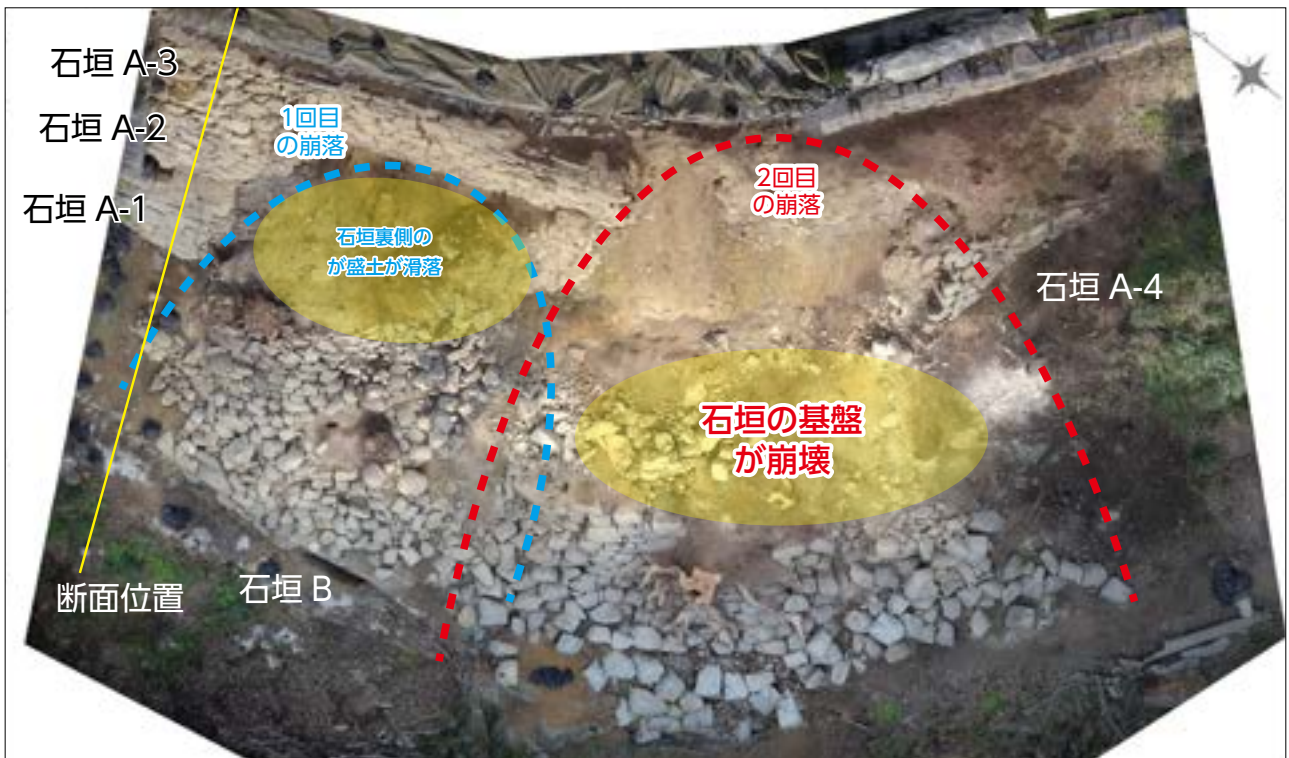
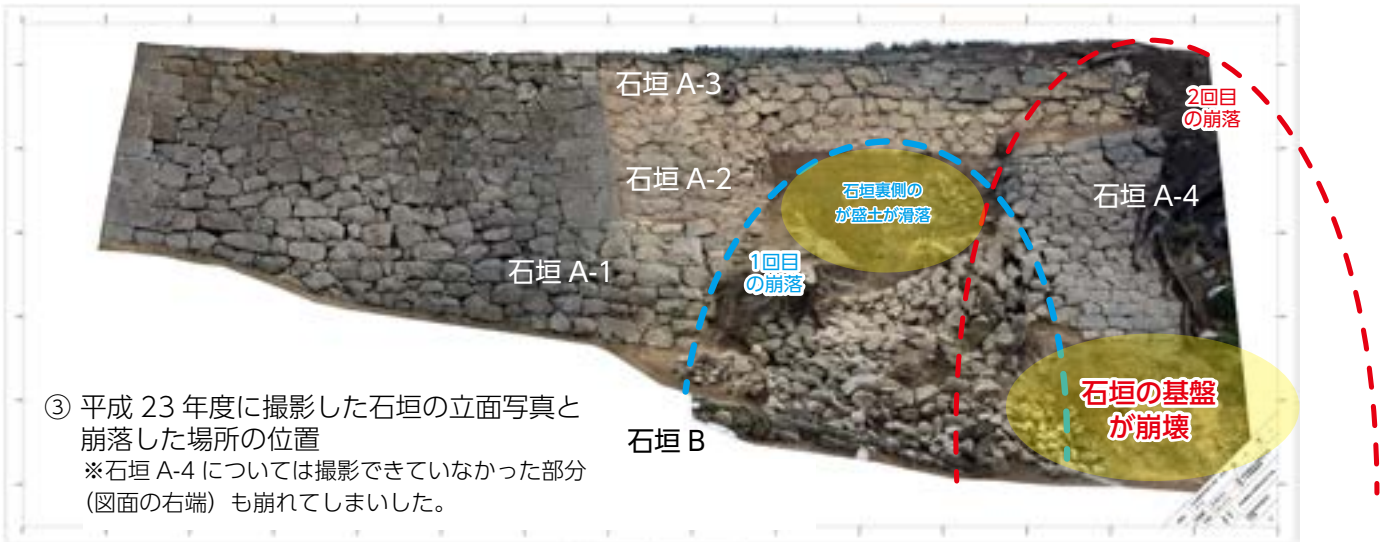


② 宇和島城下絵図屏風 部分
元禄6～8 (1693～95) 年頃

◆ 平成23年の災害と昨年の災害との違い

平成23年の災害(前回)と昨年の災害(今回)については、その原因が大雨による土砂災害という点では同じですが、その崩れ方が異なっていることが分かってきました。3ページの図⑤は正常な状態で残っている場所の断面と、地盤の固さなどの地質調査の成果を合わせた図となります。前回の崩落は青点線、今回の崩落は赤点線で示していますが、前回は石垣の裏側の土(盛土)の地すべりによって石垣が崩落しましたが、今回は石垣の基盤岩(地盤)ごと崩れてしまったことが、被害の大きさにつながっていたのです。

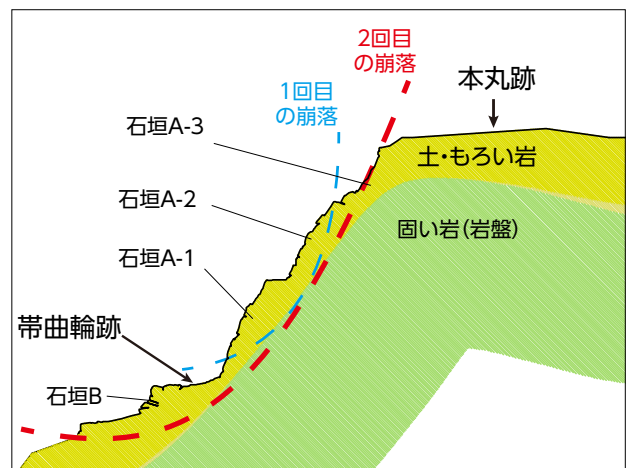
●掲載絵図の所蔵元 ①の絵図：公益財団法人宇和島伊達文化保存会 ②宇和島市立伊達博物館
●二之丸などの表記について：本文中に出てくるこれらの名称は絵図などの史料にあるものを使用しています。



④今年度に撮影した崩落場所の平面写真図と崩落した場所

◆ 復旧工事の難しさ

この場所の工事は難航しそうです。一つには地盤の問題です。崩れた地盤復旧には、江戸時代に可能であった工法から検討していかなくてはなりません。また石垣の地盤が固い岩の斜面上で石垣を築いてもまた崩れて(滑って)しまう恐れがあるため、この点も改良すべきと考えています。次に石垣構造が複雑ということです。本丸側にある石垣Aについては向かって左側から、1段→3段→2段と構造が変化していて、これは江戸時代の改修によるものと考えています。原状復旧が原則とされていますが、崩落前の完全な図面がないため、崩落した石材を一つ一つ調査をしながらの復元検討となることから、かなりの時間がかかる見込みです。



⑤断面図と地質調査図から検討した崩落イメージ

お城・お知らせ・瓦版

◆堀の石垣を新たに発見！！

2月5日、本町追手の木屋旅館敷地内の工事中に、石垣が発見されました。その石垣は堀の一部で、幸運なことに、ちょうどコーナー部分で、さらに追手門跡につながっていく大事な部分だということがわかりました。工事の都合上そのまま破壊せずに埋戻しましたが、この石垣をどのように活用していけばよいのか目下検討中で、現地説明会開催のご案内も含めて改めてお知らせする予定です。



▲発見された石垣、当時は石垣の前は水掘でした

◆城山郷土館と天守がリニューアル♪ (3月29日オープン)

宇和島伊達400年祭にあわせて、郷土館と天守の展示を一新することとなりました。郷土館については、今までの民具の展示を一新、宇和島の先人や偉人、そして宇和島が舞台となった文学作品やその作家の方たちにスポットをあてた展示となります。天守では、宇和島城下絵図屏風の複製展示をはじめ、伊達家や現存12天守にまつわるパネルの展示となる予定で、江戸時代の城下の様子や天守のことをわかりやすく学べる内容となります。



▲天守裏に設置のバイオトイレ

◆本丸にトイレ出来ました

今まで本丸跡にはトイレがありませんでしたが、昨年天守裏にバイオトイレを設置しました。大便器、小便器をそれぞれ1基ずつ備え付けています。普通のオガクズを利用して糞尿を分解する仕組みですが、無臭の上、オガクズも肥料に再利用できるため、城内の植栽物に散布するなどして有効活用しています。

◆城山で学んで遊ぼう♪ - 宇和島城城山を守る会

本会も5年目を迎えました。現在は40名程度の会員で、月2回、日曜日の午前中に2時間程度の活動をしています。年会費500円、いつでも入会できます。文化課担当者(廣瀬)までご連絡ください。もう少し詳しくお知りになりたい方はこちら→城山を守る会ブログ「大目付日記」(<http://uwajimajou-shiromori.blogspot.com>)

●城山夜間開城『宵城花灯(よいじろはなあかり)』(7月23日)

昨年も450名あまりのたくさんの方に足を運んでいただきました。天守前を竹やペットボトルの灯籠で飾り付け、市内で一番高いビアガーデンやスーパーボールすくいなどお子さんも楽しめるお店も開店、来城された皆さんにとっても好評でした。今年は宇和島伊達400年祭にちなんだオブジェを企画検討中です!

●お城まつり(9月27～28日)

宇和島青年会議所の皆さんのおかげで大変にぎわいました。守る会もダンボール甲冑づくりや甲冑の試着体験コーナーを担当、今年は5月4～5日で開催予定です。昨年に負けない楽しいイベントとなるよう、私たちも頑張ります♪

●正月飾りづくり(12月21日)

宇和島伊達家の資料にもとに製作してきた鏡餅づくりも3回目となりました。昨年は天赦園をお借りして、天守をバックに餅つきを楽しみました。注連縄も会員みんなで手作りをし、12月23日の煤払い後に天守や門など各所に取り付けました。

●新春お接待(1月2日)

鏡餅作りと合わせて紅白の小判餅を100個製作、お正月に天守においていただいた方に、津島岩松“なっそ”の甘酒と一緒に振る舞いました。寒風吹きすさぶ寒い日でしたが、市外からいらっしゃった方々に大変喜んでいただきました。



■ 問合せ先

教育委員会 文化課 文化財保護係 【Tel】 49-7033 【Fax】 22-5058 【Mail】 bunka@city.uwajima.lg.jp